

高西地区
からこんにちは
今月の気になる人

興津地区より

毎日充実しています！

たけぞえ かずひと
竹添 和史さん (37)
ともか
智加さん (33)



四万十町興津地区の40アールの圃場でミョウガを栽培されている竹添さん夫妻。和史さんは、興津地区青壮年部から園芸部など、部会活動でも日頃より大変ご協力いただいています。

和史さんは結婚の2年前から就農されてミョウガ栽培に励み、智加さんとは今年で結婚して13年目になります。長年家族で農業を続けてきた仲良しの2人ですが、毎年忙しいので13年はあっという間に過ぎたそうです。現在では娘さん4人に囲まれ、「4人とも成人するまではなんとか頑張っていきたい！」と意気込んでいました。

明るく元気な和史さんとおしとやかな智加さん。お二人とも毎日家庭と農業の両立で大変忙しいと思いますが、健康を第一にこれからの4人の娘さんの成長と農業の発展を願っています。



東津野地区より

自慢の巣箱ができたよ～！

またがわ たけよし
又川 武好さん (76)



津野町北川で米なすや水稻を栽培している又川武好さん。作休み期間に訪問すると、趣味のミツバチの養蜂箱を作成しているところでした。又川さんは昔からニホンミツバチのはちみつ採取を行っており、ミツバチの生態系などにもとても詳しいです。そんな又川さんが作成する養蜂箱には他にはない「こだわり」があり、中のミツバチの様子をいつでも確認できるように、のぞき窓を設置しています。近年はニホンミツバチの数が減ってきており、養蜂の技術も難しくなっているそうで、又川さんはYouTubeなども利用しながら養蜂技術にさらなる磨きをかけています。おいしいはちみつが沢山採れるといいですね！

大野見もっと知りたい！

体験したい！

さかもと そういち
坂本 創一さん (26)

坂本さんは埼玉県さいたま市出身。現在、中土佐町地域おこし協力隊として大野見地域の水産農作物振興の場で活躍されています。坂本さんは根っからの旅好きで、大学在学中は海外7カ国を旅し、各国の歴史や文化・食に触れ刺激を受けたそうです。

大学卒業後、東京のIT金融企業で勤務していましたが、大都会での人混み・仕事に揉まれていくうちに、やはり自然や文化・歴史に触れていきたいとの思いが膨らんでいきました。そんな折、友人が高知でゲストハウス経営を始めたのをきっかけに高知を知りました。坂本さん曰く、「高知は四国の中のプチ外国(笑)。山あり海ありで食は美味しいし、言葉(土佐弁)も面白い!」。これを聞くと土佐の人間はなんだか嬉しくなりますね。

移住フェアで松下昇平さんと出会い、大野見への移住を決心。今では大野見地域の七面鳥や農業に関わることで歴史や文化に触れ、とても充実した毎日を送っています。

夢は、「日本の良さをもっと感じたい! 中土佐町をベースにし、日本全国の町が元気になれるよう交流したい!」と、なんとも頼もしい若人ですね! 住民みんなが応援しゆうきね～!

大野見地区より



できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



アスパラガスの重さを測り束ねています。

1 四万十地域 春芽アスパラガス 出荷最盛期

2月中旬から四万十営農経済センター管内の東大奈路野菜集出荷所でアスパラガスの出荷が始まりました。

アスパラガスは春芽と夏芽に分類され、春芽は2月中旬から5月まで、夏芽は6月から10月まで収穫が続く、年間約26トンの出荷を見込んでいます。全国面積からすると高知県産アスパラガスは極わずかですが、管内は県内一の産地。平成16年頃から主に露地栽培が始まり、現在は四万十アスパラガス部会として8戸の農家が114

アールでハウス栽培を行っています。

管内のアスパラは、栽培当初から取引のある市場から品質にも高い評価をいただいています。今年は寒い日が続きましたが、品質が心配されましたが、品質は例年通り良いということが、春芽の出荷作業は3月に最盛期を迎えます。収穫されたばかりのみずみずしい緑色のアスパラガスは、約2センチに切りそろえ、重さや品質ごとに選別され箱詰めし、県内外へ出荷されます。



1mにカットした原木へ植菌していきます。

2 津野山地域 原木しいたけ 植菌はじまる

津野山地域では2月、3月にかけて原木しいたけの植菌が行われています。榛原町の山林には多くの原木林が存在し、原木しいたけ栽培を通じて資源の有効活用に取り組んでいます。しかし近年では高齢化などにより原木調達が困難になりつつあり、植菌量も年々減少傾向にあります。

榛原町では町有林の原木利用に対して、補助金制度を設けるなど、資源活用、生産力の向上を目指しています。JA椎茸生産部会では生産者メンバーによって結成された共同体による原木の切り出し作業などを行っており、今年も約45トンの原木を各生産者のもとへ供給しました。

数年前までは100トンを超える供給がありましたが、ここ2、3年は50トン程度と寂しい数量になってきています。

原木栽培は重労働を必要とするため、高齢化が進むにつれてより厳しい状況が想定されます。JAでも複合経営農業の1品目として位置づけし、農家の所得確保に向け独自の取引先を模索するなど販売強化を行っています。

地域のほだ場では春子が芽を出し収穫も始まる時期ですが、今冬は雨量が少なくカラッとした寒さが続いたため、平年より出芽が遅く収穫量が少ない予想となっています。少しでも品質の高いものを出荷するため、部会では早どりなどの呼びかけを行っています。

3 四万十地域 ウイルス感染から 養豚業を守る



養豚関係者が意見を交わしました。

2月17日、家畜衛生保健所で豚のウイルス感染（PRRS）に関する協議会が行われました。

豚やいのししに感染するPRRSウイルスは母豚の繁殖障害と、子豚の呼吸器病という二つの症状が特徴です。窪川養豚協会では令和3年より動物用医薬品会社と連携し、窪川地区のPRRS撲滅のため協議を行っています。会では定期的な血液検査と獣医師による農場巡回で現場の状況を把握し、今後のワクチンプログラムの指導、衛生管理の改善について協議されました。

4 津野山地域 津野山地域 営農連絡協議会を開催



地域農業の活性化に向けて協議しました。

津野山地域では県農業振興センター、家畜衛生診療所、榛原町、津野町、JAが一体となって地域の農業を支えるために「津野山地域営農連絡協議会」を立ち上げており、毎年3月に年度実績を踏まえ、次年度の計画を協議しています。特産品の津野茶の販売戦略計画や、近年出荷量が増えているユズの産地計画、またミョウガやナス、土佐甘トウといった園芸品目のプロジェクト計画及び畜産業に関する課題の検討など様々な方面から協議を行いました。新たな担い手を確保ししっかり所得を確保できるように、品目の選定や複合経営モデル（茶）などについても協議を行っています。

5 四万十地域 ミョウガ目慣らし会を開催



出荷について確認をしています。

四万十ハウスミョウガ部会は2月24日、興津集出荷所で目慣らし会を開催しました。生産者とJA職員、普及所職員が参加し、栽培管理や選別、販売促進について説明しました。

四万十町興津地区は海岸部の温暖な気候条件を生かし、県内でも有数のミョウガ産地で同部会では50戸の農家がハウス栽培しています。今年度は台風の影響で出荷量は昨年と比較は少なくなりましたが、単価は安定しており、全国各地へ出荷されています。高品質なミョウガが出荷できるよう部会一丸となって栽培に取り組んでいきます。

6 津野山地域 「かわいい芽キャベツ」 ぎっしり！！



かわいらしく並ぶ芽キャベツ！

津野町桑ヶ市のとある農家さんのハウスでは冬の寒さに負けず「芽キャベツ」がぎっしりと並んでいました。この地域では見かけることの少ない珍野菜で農家さんも「こんなにたくさん実るとは思わなくてびっくりした」と話されていました。収穫を体験させていただきましたが、1つ1つプチッと収穫した芽キャベツは道の駅などにも出荷しています。珍野菜ゆえに調理方法など知らない方も多いと思いますが、フランス料理などではよく使われており、身近な料理ではシチューやポトフ、ハンバーグの付け合せなどで食べるとおいしいそうです！

津野山地域より

水稲用除草剤の初期剤・ 初中期一発剤の上手な使い方

雑草防除は除草剤による方法が主ですが、大きく分けて体系処理と一発処理の2つがあります。

- 体系処理 … 初期剤と中後期剤を用いて、除草剤を2～3回散布する方法
- 一発処理剤 … 薬剤の1回散布だけで防除を済ませる方法

近年では一発処理剤やジャンボ剤による防除が主流ですが、薬剤中に含まれている有効成分によって有効な草種が異なるので、圃場に発生する草種に合わせた薬剤を使用することも大事になってきます。

初期剤、初中期一発剤といった湛水・土壌処理剤をしっかりと効かせるためには、**薬剤処理後は少なくとも3～4日間、水深を3～5cmに保ち、土壌表面に薬剤の処理層を形成させることが重要です。**そのためには田面を均平にし、漏水を極力防ぐ圃場作りを心がけましょう。また、周辺環境の保全のためにも、**農薬が土壌などに落ち着くまでの7日間は、落水及びかけ流しは行わないように徹底しましょう。**

【津野山営農経済センターでの取り扱い商品紹介】

商品名	成分数	使用量	使用時期	使用回数	特性
ダッシュワンフロアブル	2	500ml/10a	植代後～移植前7日前まで 移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	1回	原液湛水散布
クサトッタ粒剤	4	3kg/10a	移植直後からノビエ2葉期まで ただし、移植後30日まで	1回	初期一発除草剤
《中後期剤》レプラス粒剤	4	1kg/10a	移植後14日からノビエ4葉期まで、 ただし収穫60前日まで	1回	湛水散布
ホームランLジャンボ	3	500g/10a	移植後3日からノビエ2葉期まで、 ただし移植後30日まで	1回	ノビエに対する残効性の 長い有効成分を含む 一発処理除草剤
カイリキZジャンボ	3	300g/10a	移植後3日～ノビエ3葉期まで、 ただし移植後30日まで	1回	幅広い種類の雑草に有効 難防除雑草にも効果の ある一発処理除草剤
ウィナーLジャンボ	3	500g/10a	移植直後からノビエ2.5葉期まで、 ただし移植後30日まで	1回	抵抗性雑草（ホタルイ、 コナギ、アゼナ）にも有効



※使用量、使用時期・回数等を十分注意して使用基準を守りましょう。

◎紹介した商品やその他の剤については、
津野山営農経済センター購買課（TEL.0889-62-3501）にお問い合わせください。



四万十地域より

カントリーエレベーター 利用者を募集します

四万十カントリーエレベーター（以下、CE）は、県内唯一のお米の乾燥・貯蔵・調整施設として、30年以上地域の皆様とともに歩んできました。

CEをご利用頂くには、生産者で組織するCE利用組合に加入して頂く必要がありますが、下記の要件等もございますので、ご利用に興味のある方には詳しい説明をさせていただきますので、下記まで問い合わせをお願いします。



受入対象・・・四万十町窪川地域の台地部の圃場で生産した下記品種

受入品種および受入期間・・・（品種により受入期間を定めています）

あきたこまち・飼料用米あきたこまち：8/20～8/31

ヒノヒカリ：9/15～9/30

にこまる：10/2～10/16

利用組合費・・・年会費：無料・従量賦課金：0.5円/受入生粳kg

利用料・・・12円～23円/受入生粳kg（令和3年度設定・生粳水分により変動）

【参考経費】

経営規模・・・1ha・玄米反収420kg・生粳水分22%と仮定

自家乾燥・調整の場合の機械装備・・・乾燥機1台・粳摺機1式を15年使用すると仮定

CE利用の場合： 約14万円+CEまでのガソリン代

自家乾燥・調整の場合： 約20万円（償却相当額・光熱費・出荷資材費）

◎お問い合わせ先：四万十営農経済センター販売課
（TEL.0880-22-3586）

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

俳句

霧の里句会

映空をひろどるように冬の鶯
寒風のがたがたと雨戸を揺らす

市川 和美

嬉しやな我が句の批評去年今年
車椅子揺られて耳に春の風

竹内 春猪

春うらら給ふ卒寿の誕生歌

葉牡丹やレースになりし虫漬す

今橋 孝子

雀の子ひかり連れ翔つ軒端かな

春耕の腕にしかと地の鼓動

長谷部 延子

オリンピック氷上演技魅せられて
冬耕のトラクター追ふ群れカラス

田中 信子

短歌

窪川短歌教室

次々と姿を変えて人間に挑み続ける新型コロナ

中内 佐登美

百八つをあまる煩惱たまりゐてふくらみやまぬ腹部と臀部

黒岩 やよえ

元朝の数の子旨く盃すすむ子を生さぬまま老いたる二人

市川 浩子

老人になる覚悟などありませんあと十年は変わらぬ私

文野 見枝子

祖母われにいまできることはこれだけと氏神様に合格祈願す

市川 隆子

早世の叔母と歩みし桜みち着せ替え人形買ってもらいき

島岡 紀美

白熱のシード争う孫の母校眼が離せない箱根駅伝

北村 さちこ

俳句

おたよりから

桜散る足音静か雨上がり

(津野町・弘瀬 秀頼)

球音の春の土佐路にこだませる

(津野町・村田 三喜子)

チヨコレイト渡す人無し独り占め

(椿原町・松山 松美)

INFORMATION

お知らせ

献茶スタッフ(パート・アルバイト)募集

仕事内容 葬祭会場での準備・接客・掃除等

*未経験者可
*詳しくは下記までお問い合わせください。

お問い合わせ JAメモリアルこうち四万十営業所
(JA葬祭ルミエール四万十)
四万十町榊山町9-7
TEL 0880-22-5900